

# 人流抑制により、 バス業界は危機的



## 日本バス協会 会長 清水 一郎

しみず・いちろう 東京大学法学部卒、英ケンブリッジ大大学院修了。1990年運輸省(現国土交通省)入省後、在英日本大使館参事官、観光庁観光戦略課長などを経て退官。2014年に伊予鉄道(現伊予鉄グループ)副社長を経て、2015年から社長。2021年6月から日本バス協会会長に就任。松山市出身。54歳。

## バス業界は、戦後最大の危機

一年半にもわたって、人流抑制により、人の流れが止まり、バス業界は危機的。まさに戦後最大の危機である。路線バスは、もともと儲かっておらず、しかも、貸切バスの需要は、旅行の激減で一気に消えた。これでは、地域のバスを維持することも難しくなる。

地域の生活交通として、休むこともできず、お客様がいなくても走らないといけないのが路線バス。路線維持のために、必死にやっているが、公共交通とは言っても民間会社。民間の努力だけでは限界がある。人流抑制の影響を受けたのは、飲食や宿泊だけでなく、一番影響を受けたのは、交通機関ではないか。数ヶ月ならともかく、さすがに一年半も人の流れが止まれば、バスなど公共交通機関はもたない。

## 人流抑制は合理的なのか

これまで人流抑制をしたのはやむを得なかった部分があったかもしれないが、ワクチン接種が七割以上の人に浸透する中、人流抑制が、コロナ対策として本当に合理的なのか、データやエビデンス(科学的根拠)で検証していただきたい。

県外に出ても出なくても、マスク外して大騒ぎをしてクラスターが発生したというデータはあるが、マスクをしてきちんと対策をして交通機関に乗ることで本当に感染が広がるのか、データで示すべき。もし、今後、人流抑制をする場合は、データを示した上でお願いしたい。マスクして満員電車など交通機関に乗って、クラスターが起きた例は、聞いたことが無い。マスクを外して大騒ぎすることと、マスクして対策して交通機関に乗ることを、人流として、一緒にしないで欲しい。

## 帰省ができる世の中に

お盆や正月、という帰省シーズンの度に、この一年半ずっと、人流抑制され続け、バス業界は、どうしようもない状況だ。ワクチンがもうこれだけ浸透した以上、帰省するのは構わないという世の中であって欲しい。帰省先では慎重に、マスクを外して騒いだりしなければ良いのではないか。

ぜひ、今度の正月は、交通機関に乗って、帰省して欲しい。バスなど交通機関は、換気や消毒も徹底している。日本では、マスク生活はまだ数年は続くだろう。マスクして十分対策して、人は動いて欲しい。人が動かないと経済は止まってしまう。帰省だけでなく、旅行や出張もしていただきたい。

## バスによる地域への貢献

GOTOトラベルについても、ぜひ、マイカーより、公共交通機関をなるべく利用して欲しい。できるだけ公共交通を優先する仕組みに。マイカーで移動するだけでは、地方経済への波及は限定的となる。旅行先でも、バスや電車に、もっと乗ってもらいたい。バスなど公共交通機関に乗っていただくことが地域への貢献にもつながる。

## サステナブルなバスを目指して

安全は全てに優先する。バス業界としては、いかに厳しくても、安全に必要な投資を減らすことはない。バスは、今後も安全を最優先でやっていく。

また、地球環境に配慮したバスを目指すとともに、バスにおけるデジタル化や、スマートフォンで決済・乗り降りができるMaaSを推進するなど、未来あるバスを目指していきたい。